

熱中症情報

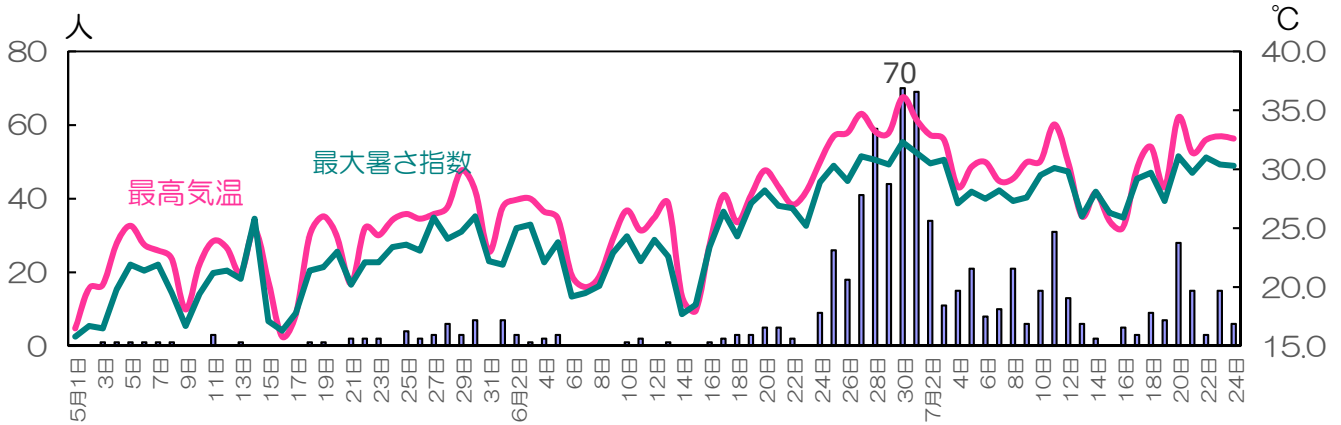
<搬送数>

令和4年5月1日～7月24日までの搬送数（消防局データを使用）は、計704人（5月43人、6月308人、7月353人）でした。6月30日は最高気温36.1℃で、搬送数が70人/日でした。7月13日以降は、気温が低く、10人以下/日と減少していましたが、7月20日に最高気温34.4℃となり、28人と増加しました。

熱中症は、暑い日が続いてくると多発する傾向があり、気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

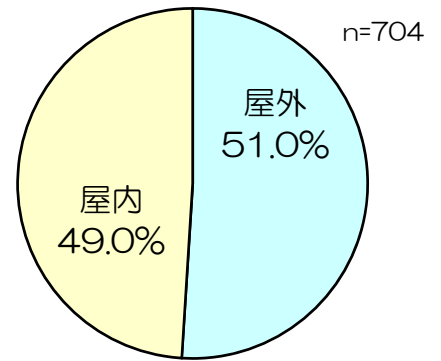
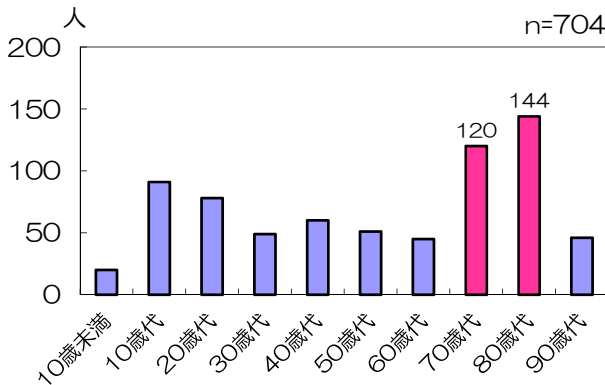
昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。



暑さ指数とは? 人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは?](#)」をご覧ください。

<年齢別>

80歳代が144人(20.5%)で最も多く、**<発生場所>** 屋外51.0%、屋内49.0%で、次に70歳代120人(17.0%)でした。



<重症度>

軽症60.4%、中等症35.5%、重症3.6%、重篤0.6%でした。高齢者(65歳以上)は中等症以上の割合が58.3%で、高齢者に重症化する傾向がみられます。

